

## 第7回熊本県半導体エコシステム形成産学官連携推進会議 議事概要

【日 時】令和8年（2026年）3月5日（木）～3月13日（金）

【形 式】書面開催

【委員一覧（敬称略）】

所属機関・企業	役 職 等	氏 名
熊本県	知事	木村 敬
国立大学法人熊本大学	学長	小川 久雄
熊本市	経済観光局産業部長	脇坂 真智子
株式会社野田市電子（一般社団法人 熊本県工業連合会）	代表取締役社長	野田 珠実
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社	熊本 TEC 長	迫田 茂生
熊本高等専門学校	校長	高松 洋
株式会社肥後銀行	産業イノベーション推進部長	佐藤 岳雄
株式会社熊本銀行	ソリューション営業部長	白石 崇
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社	主席研究員	吉本 陽子
学校法人赤山学園九州技術教育専門学校	理事長	赤山 聖子

### 【議事概要】

#### 地方大学・地域産業創生交付金事業の進捗状況等について

本交付金の取組みや進捗状況等について、下記のとおり意見等があった。

- ・ TSMC が 3nm 世代半導体の量産を計画していることを受け、高度人材育成の加速・強化が一層求められると想定される。教育体制の強化や専門教育の拡充、学生の共同研究参画など「教育基盤づくり」は順調に進展しているが、即戦力に繋がる人材の育成・輩出に向けて、実践的な取組の更なる推進を検討いただきたい。
- ・ ベンチャーピッチでは、ファイナリストの技術やアイデアが埋もれないよう、ビジネス化に向けた丁寧かつ伴走型のマッチング支援を継続して実施いただきたい。事業化の際には、熊本市のスタートアップ支援拠点「XOSS POINT.」との連携も検討いた

だきたい。

- ・ TSMC が 3nm 世代への生産計画を実行した場合、同社や集積するサプライヤーへの影響が見込まれる。半導体関連産業の生産額や雇用者数等の KPI の検証が必要となると想定されるため、影響を注視しつつ、適切な時期に本会議で共有いただきたい。
- ・ 熊本大学において大学院に「半導体・情報数理専攻」を新設するなど、スピード感をもって取り組んでいる。
- ・ 学生を雇用し、共同研究への参画を推進することで、学業と実践的研究の両立が図られている。本事業を通じて優れた人材が輩出され、地域産業に貢献されることを期待する。
- ・ 半導体は政府が示す 17 の成長戦略に含まれており、半導体産業を担う人材へのニーズは今後ますます高まっていくと思われる。全体に順調に進捗しているとうかがえるが、今後も半導体人材の育成には加速度的に取り組むことを期待する。
- ・ 熊本大学と即戦力のある高専との連携、そしてトップレベル研究者の招聘には、引き続き注力していただきたい。
- ・ IMEC のような世界最先端の半導体研究開発機関において、第一線で活躍するトップレベルの研究者のセミナーは学生にとって大いに刺激となり、今後の進路にも少なからず影響をもたらすと考える。
- ・ KPI の「三次元積層実装技術に関する特許出願件数」について、出口戦略や事業戦略をより重視した方向へシフトするべく、今後注力すべき指標への見直しを検討するとのことであるが、重要な視点であり、見直しの結果に注目したい。
- ・ 大学院「半導体・情報数理専攻」を当初計画より 1 年前倒しで新設したことについて、本事業の推進力の高さを示すものとして高く評価する。修士課程 115 名、博士課程 14 名という入学者数は、地域の半導体人材育成の裾野が確実に広がっていることを示していると感じる。
- ・ TSMC・IMEC・台湾国立大との連携強化は、熊本の取り組みを国際的なレベルに引き上げるうえで重要な基盤となっており、着実な成果であると認識する。
- ・ KPI について、3D コンソーシアム会員数や半導体カリキュラム受講者数が目標を大幅に上回っており、産学官連携の裾野が広がっている点は事業の根幹に関わる成果として評価する。
- ・ 学生を雇用し、共同研究に参画させる取り組みは特に印象的である。給与を得ながら研究に専念できる環境は、アルバイトに時間を割かれることなく研究に集中できることを意味し、研究の質・深さにも直結するもので、実質的な支援として大変意義深いと感じる。このような「学びながら稼ぎ、稼ぎながら研究する」仕組みは、学生のモチベーション向上にも大きく寄与するものと共感するため、より多くの学生がこの制度を活用できるよう、継続・拡充を期待する。
- ・ 工業系の専門学校の中には、半導体に力をいれているところもあり、専門学校からの編入学も検討にいれてはいかがだろうか。

以上